

平成22年11月5日

各 位

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 高野瀬 忠明

平成23年3月期（第2期）第2四半期 決算短信発表にあたり
－ 雪印メグミルクグループ中期経営計画の達成に向けて －

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知のように、当社は、平成21年10月に日本ミルクコミュニティ株式会社と雪印乳業株式会社が経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として発足いたしました。以来、皆様からご支援を賜り、混乱を生じることなく一周年を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。

この間、世界的な資源・食料価格の乱高下や食糧需給ギャップの振れ幅の拡大、消費者の食の安全・安心に対する意識や健康志向の一層の高まり、食に対するニーズの多様化など、食品産業を取り巻く環境が大きく変動しており、企業経営の舵取りは益々難しくなってきました。

当第2四半期（4月～9月）連結会計期間におけるわが国経済は、景気に回復の兆しが見られるものの、円が続伸するなか厳しい雇用・所得環境が続いており、また、物価の動向は緩やかなデフレ状況にあるなど、景気の足踏み状態にあり、依然として楽観できる状況にはありません。食品業界においても、低調に推移する個人消費や消費者の低価格志向、市場競争の激化など、厳しい事業環境が続いており、また、酪農乳業界においては、国際的な需要増により市場が堅調に推移している一方で、国内では生乳の生産および牛乳の消費は低迷しております。

このような経営環境の中、当社グループは「雪印メグミルクグループ中期経営計画（平成21年度～平成25年度）」の事業戦略である「シナジーの創出とイノベーションへの挑戦」に積極的に取り組んでまいりました。

具体的には、当社グループの研究基盤を強化するため、当社に「ミルクサイエンス研究所」を新設し、乳製品事業と乳飲料事業の総合乳業分野を対象として、「乳」の持つ可能性を「深め」、価値を「高め」、「広げていく」研究を進めることにより、独自性のある新商品開発に取り組みました。また、海外事業展開の取り組みを加速するため、当社に「海外事業部」を新設するなど、体制強化を行いました。

日本ミルクコミュニティ(株)および雪印乳業(株)を中核事業会社とするグループ企業の事業運営を一体化し、「乳飲料」、「デザート」、「ヨーグルト」、「ナチュラルチーズ」の4つのカテゴリーにおける「カテゴリーNo.1戦略」を強力に推進しました。さらに、原料乳製品の

プロダクトミックス改善や、調達・生産・物流のコスト改善等、当社グループとしての統合効果発揮への取り組みに努めました。

以上の取組みの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は2,595億円、営業利益は87億円、経常利益は96億円、四半期純利益は60億円となり、昨年4月から経営統合したと仮定した前年対比で、増収増益となりました。

売上高については、販売物量の拡大による利益の増加を大きな経営課題として取り組んでおりますが、「カテゴリーNo.1戦略」を中心に、前年対比57億円（2.3%）の増収を図ることができました。

また、営業利益は増販効果や各種コスト改善等により、11億円（15.9%）の増益となり、経常利益、四半期純利益についても同様に増益を達成いたしました。

なお、年度当初の業績予想との比較においても、売上高は概ね計画通りに、営業利益等については、増益を確保することができました。

今後も経営環境の厳しさは続くものと予想されますが、当社グループは「雪印メグミルクグループ中期経営計画（平成21年度～平成25年度）」を着実に実行していくことにより、継続的な企業成長を実現していく所存です。先般発表しました当社グループの合併は、まさに「中期経営計画」の実行を推進するための体制の強化策と位置づけています。フラットな組織とし、組織力をより強化した体制の構築を進め、統合シナジー効果の早期最大化を図るとともに、「スピード経営の実践とイノベーションへの挑戦」を加速してまいります。

合併後の組織につきまして、次に挙げる組織コンセプト並びに組織の概要体制を構築し、「中期経営計画」を着実に実行してまいります。

- (1) 品質確保の徹底
- (2) 総合乳業メーカーとしての組織力の発揮（＝乳製品・市乳の一体化）
- (3) 企業価値を高めるNB商品開発の実現
- (4) スピード経営の実践
- (5) 新規市場開拓による持続的成長
- (6) スリムな組織

「中期経営計画」の事業戦略「シナジーの創出とイノベーションへの挑戦」を加速していくための戦略設備投資として、事業戦略の第1ステップ「事業基盤の強化」に向けて「効率的生産物流体制の構築」を進めることといたしました。具体的には、茨城県稲敷郡阿見町にプロセスチーズとマーガリン類の乳製品統合工場を新たに建設し、次世代型生産物流体制を構築します。また、首都圏における市乳・乳飲料の新基幹工場として海老名工場の基盤整備を行い、「新海老名工場」として再構築いたします。

さらに、事業戦略の第2ステップ「経営資源の活用拡大」のための「カテゴリーNo.1戦略」を推進する設備投資に着手いたします。具体的には、国内酪農政策における国産チーズ振興の方向性と連動した大樹工場「雪印北海道100 さけるチーズ」、および海老名工場

のプレーンヨーグルト「ナチュレ 恵 megumi」の生産能力増強を図ります。これらにより、重要カテゴリーである「国産ナチュラルチーズ」および「ヨーグルト」のシェア向上によるカテゴリーNo.1戦略を推進してまいります。

これら4件の投資額合計は470億円となり、「中期経営計画」におきまして表明している戦略設備投資800億円の半分以上を占めることとなります。「中期経営計画」を実現する具体的な施策として実行してまいります。

合併後の当社グループの企業理念や当社のコーポレートシンボルマーク等につきまして、次のように定めることとし、本日、発表いたします。

新企業理念を「私たちの使命」と「コーポレートスローガン」とで構成し、ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けることを誓います。併せて、企業理念を象徴する新コーポレートシンボルマーク「スノーミルククラウン」と新コーポレートカラーを定めます。柔らかな外形のミルククラウンとシャープな雪の結晶を融合した「スノーミルククラウン」は、ミルクの持つ未知の可能性への期待や当社の挑戦への意気込みを示すものであり、当社グループが目指し、お客様に提供する価値の新たな象徴です。

コーポレートシンボルマークと連動して、雪印とメグミルクが培ってきた価値をお伝えするために、経営統合時に設定したコーポレートブランドロゴを継続して使用することといたします。

コーポレートカラーとして、「メグスノーブルー」（深みのある青）と「ミルクホワイต์（純白）」を定めます。

合併後の雪印メグミルクグループにおきましては、食の責任を強く認識し、安全で安心していただける商品を提供し続けることを基本においてCSRの確立を目指していくこと、「乳」の新しい価値を創造し「次世代型総合乳業メーカー」を目指していくことを企業経営の根幹といたします。

合併を新たなステージのスタートと認識し、これまで賜りました皆様方のご指導、ご支援に深く感謝するとともに、ご期待に応えるべく、役職員一同、「乳」の新たな価値をお届けすることにより、酪農生産と消費者の方々の笑顔や健康に貢献してまいります。

今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上